



お客様のセミナー参加状況を知りたい
～仮想DB(集合型)の作り方～

P / PED BITS

株式会社パイプドビット

～ 目次 ～

1. 仮想DB（集合型）とは	
1. イメージ図	p3
2. 仕様	p4
3. 制約事項	p4
2. 設定手順	
1. 概要図	p5
2. 手順	
1. 「全セミナー参加者一覧DB」に必要な3つのデータベースを選択する。	p8
2. データベースごとのレコード数を決定する。	p11
3. 「全セミナー参加者の一覧表」で表示するフィールドを設定する。	p12
4. 「全セミナー参加者の一覧表」を作成する。	p16
5. 「全セミナー参加者の一覧表」から検索する。	p19
3. 付録	p20
4. 問い合わせ先のご案内	p21

1【仮想DB(集合型)とは】

仮想DB(集合型)は複数のデータベースを集合させて、情報を一括検索することができます。
 例えば、イベント単位で管理している複数のデータベースも、仮想DB(集合型)で一括検索することで、お客様単位での参加履歴を見ることができます。
 さらに、会員サイトの複数の種類の情報も、タイムラインとして一覧表示できます。
 このように仮想DB(集合型)は、複数のデータベースに散らばった情報を見つけやすくすることができます。

1-1【イメージ図】

Before

複数のデータベースがある。
 複数の一覧表があり、それぞれの画面で検索する。



After

データベースを1つにまとめる。
 一覧表で参加者名で検索する。



1-2【仕様】

項目	仕様
集合できるDB数	2個以上12個以下
集合できるDBタイプ	通常DB、トランザクションDB
フィールド数上限	150個
レコードサイズ上限	16,384バイト
フィールドタイプ別仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・セレクト、マルチセレクト、マルチセレクト(128項目)、ブーリアン、オプトアウト 共有フィールドの場合、設定できます。 ・画像型フィールド 1つのDBにつき1個まで設定できます。 同じ画像マスタDBのフィールドを使用してください。 ・ファイル型フィールド 1つのDBにつき5個まで設定できます(個数はオプションのご契約内容に準じます) 同じファイル型フィールドを使用してください。
システムID	集合したDBに割り振られたIDとレコードに割り振られたIDを組み合わせて新たに生成

1-3【制約事項】

- ・ 仮想DB(集合型)のレコードは新規登録、更新、削除できません。
- ・ 仮想DB(集合型)を配信元にしたメール配信はできません。
- ・ 仮想DB(集合型)を元に作成した一覧表をマイエリアへログインした後に会員識別キーでフィルタして表示する場合、仮想DB(集合型)の設定に応じて表示いたします。

2 設定手順

2-1 【概要図】

今回は、複数利用しているセミナーのデータベースをまとめた「仮想DB(集合型)」を設定して「全セミナー参加者一覧DB」を作成しましょう。そこから「全セミナー参加者の一覧表」を作成して、それぞれのデータベースごとに検索している状態か一回で検索できる状態にします。



2 設定手順

1. 各セミナーごとにセミナー名や参加状況を含めた「全セミナー参加者一覧DB」を作成します。(*1)

【今回使用するセミナーDB(例)】

- ・2012/03 スタートアップセミナー
- ・2012/05 メール配信セミナー
- ・2012/06 SPIRALご紹介セミナー

*1 DB作成の際、セミナーへの参加または不参加を登録する「セミナー参加フィールド」にセミナー名を含めることで、お客様がどのセミナーへ参加したのかが分かりやすくなります。

・「セミナー参加フィールド」(セレクト)の選択肢(例)

ID	ラベル
1	2012/03 スタートアップセミナー 参加
2	2012/03 スタートアップセミナー 不参加
3	2012/05 メール配信セミナー 参加
4	2012/05 メール配信セミナー 不参加
5	2012/06 SPIRALご紹介セミナー 参加
6	2012/06 SPIRALご紹介セミナー 不参加

・全セミナー参加者一覧DBから作成した一覧表(完成図)

メールアドレス	pi-pe@example.com
お名前	パイプ太郎
会員ID	

(検索)

全セミナー参加者の一覧表

▶	メールアドレス	お名前	会員ID	セミナー参加	
▲	22678154702849	pi-pe@example.com	パイプ太郎	32	2012/03 スタートアップセミナー 参加
▲	22678154702850	pi-pe@example.com	パイプ太郎	17	2012/06 SPIRALご紹介セミナー 参加

このページは、当社が提供する株式会社パイプビットズの「情報管理システム」(S-パイプビット)が
表示しています。



2 設定手順

2. セミナー実施後、参加または不参加を「全セミナー参加者一覧DB」へ反映します。(*2)

*2 一覧表・単票管理にてセミナー参加申込者リストを表示して、「セミナー参加フィールド」を一括で反映する場合には一覧表編集モードが便利です。詳しくはアップデートサイトをご覧ください。

http://www.smp.ne.jp/update/ver1111/list_detail/list16.html

・一覧表・単票管理 一覧表編集モード(例)

2012/03 スタートアップセミナー参加申し込み一覧

id▲	メールアドレス	お名前	会員ID	セミナー参加
23678154702849	tanaka@example	田中 太郎	32	2012/03 スタートアップセミナー 不参加 <input type="checkbox"/>
23678154702850	suzuki@example	鈴木 一郎	17	2012/03 スタートアップセミナー 参加 <input type="checkbox"/>

更新

このページは、当社が契約する株式会社パイプドビッツの情報管理システム「スパイラル」が表示しています。



2-2-1 「全セミナー参加者一覧DB」に必要な3つのデータベースを選択する

まず、過去に作成した各セミナーDBの中から、集合したい3つのDBを選択します。

「DB」グループを選択。

The screenshot shows the SPIRAL system interface. A red circle with the number '1' highlights the 'DB' menu item in the top navigation bar. A second red circle with the number '2' highlights the '仮想DB管理(集合型)' option in the left sidebar menu.

The main content area displays the 'DB利用状況' (DB Usage Status) page. It includes a table of '発行したDB数' (Number of Issued DBs) and a summary of 'レコード・トランザクション・ファイルストレージ' (Records, Transactions, File Storage).

発行したDB数		レコード・トランザクション・ファイルストレージ	
通常DB	7	使用可能レコード数 (仮想DBは含まれません)	5000
添付(画像)DB	1	使用可能レコード数	2510
STOP DB	0	割り当て可能レコード数	2490
ステップアンケートDB	0	使用済みレコード数 (DB割り当て)	2490
ガジェットDB	1	登録済みレコード数	113
トピックDB	1	使用済みレコード数 (ユーザー割り当て)	0
コメントDB	1	▶ トランザクション数 (先月・今月)	
トランザクションDB	0	先月 (2012年3月)	0
		今月 (2012年4月)	0

「仮想DB管理(集合型)」を選択。

2-2-1 「全セミナー参加者一覧DB」に必要な3つのデータベースを選択する

「新規作成」を選択。



The screenshot shows the SPIRAL web interface. The main content area is titled '仮想DB管理(集合型)'. Below the title, there is a button labeled '仮想DB (集合型) 一覧'. Below that, there is a section titled '仮想DB (集合型) 一覧' which contains a button labeled '新規作成'. A red circle with the number '3' is placed over the '新規作成' button. A red arrow points from the text '「新規作成」を選択。' to the '新規作成' button. The left sidebar contains a menu with various options, including '仮想DB管理 (集合型)' which is highlighted in pink. The top navigation bar includes '管理', 'DB', 'Web', 'メール', 'ガジェット', 'オプション', 'アプリ', and '開発'.

2-2-1 「全セミナー参加者一覧DB」に必要な3つのデータベースを選択する

▼集合可能なDB一覧

- 2012/03 スタートアップセミナー [通常DB]
- お問い合わせ [通常DB]
- 2012/05 メール配信セミナー [通常DB]
- 資料請求 [通常DB]
- 2012/06 SPIRALご紹介セミナー

※Ctrlキーを押しながらクリックすることで複数選択できます
 ※DB名をダブルクリックしても追加できます
 ※DBは最大10まで追加できます

4 作成

▼集合元のDB一覧 [詳細設定を表示]

No.	DB名	上限値[必須]

「▼集合可能なDB一覧」より、
 今回作成する全セミナー参加者DB
 ・2012/03 スタートアップセミナー
 ・2012/05 メール配信セミナー
 ・2012/06 SPIRALご紹介セミナー
 を選択したら「作成」を押す。

2-2-2 3つのデータベースごとのレコード数を決定する

仮想DB(集合型)は合計したレコード数の割り当て上限数が3万件です。
従って、「全セミナー参加者一覧DB」の割り当てレコード数の上限が超えないように各データベースのレコード上限数を調整します。
詳しい内容は「p.19 付録」に記載しています。

【補足】

集合するDBを追加するたびに当該DBの割り当てレコード件数を自動的に設定いたします。

追加する時点で上限を超える場合、上限を越えない件数を設定するとともに、レコード件数の背景色が反転してお知らせいたします。

「▼集合元のDB一覧」より、「全セミナー参加者一覧DB」のレコード数を入力したら「作成」を選択。

No.	DB名	上限レコード数
1	2012/03 スタートアップセミナー	200
2	2012/05 メール配信セミナー	1000
3	2012/06 SPIRALご紹介セミナー	500

5

作成

2-2-3 「全セミナー参加者の一覧表」で表示するフィールドを設定する

「全セミナー参加者一覧DB」に対して、表示するフィールド(メールアドレス、お名前、会員ID、セミナー名と出欠席)を選択します。

仮想DB管理(集合型)

仮想DB(集合型) 一覧 DB設定 フィールド設定

● DB設定

仮想DB名	全セミナー参加者一覧DB
仮想DBタイトル	NewUnionDb_1
コメント	
仮想DBタイプ	集合型
集合元DB	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2012/03 スタートアップセミナー 2. 2012/05 メール配信セミナー 3. 2012/06 SPIRALご紹介セミナー

● フィールド設定

1. フィールド一覧

No.	詳細	フィールド名 (必須) *最大128bytes

フィールド追加

「フィールド設定」より、「フィールド追加」を選択。

2-2-3 「全セミナー参加者の一覧表」で表示するフィールドを設定する

フィールド追加

集合元フィールドの設定 [1つ以上必須] 説明を表示 ▶

DB名 (集合元)	フィールド (集合元)	フィールドタイプ
2012/03 スタートアップセミナー	メールアドレス	-
2012/05 メール配信セミナー		-
2012/06 SPIRALご紹介セミナー		-

メールアドレス

名前

都道府県

区市町村以下

ゴルフ歴

コース経験

平均スコア

ゴルフクラブ保持

車の有無

土日希望

登録日時

配信エラー

IPアドレス

ユーザーエージェント

パスワード

フリーコメント

7

「集合元フィールドの設定」より、データベースごとに表示するフィールドを選択。

【補足】

集合元フィールドは各DBから共通のフィールドタイプで設定されているもののみ選択できます。

2-2-3 「全セミナー参加者の一覧表」で表示するフィールドを設定する

フィールド追加

集合元フィールドの設定 [1つ以上必須] [説明を表示 ▶](#)

DB名 (集合元)	フィールド (集合元)	フィールドタイプ
2012/03 スタートアップセミナー	メールアドレス	メールアドレス
2012/05 メール配信セミナー	メールアドレス	メールアドレス
2012/06 SPIRALご紹介セミナー	メールアドレス	メールアドレス

8 OK

「OK」を選択。

2-2-3 「全セミナー参加者の一覧表」で表示するフィールドを設定する
 保存したら「全セミナー参加者一覧DB」の設定が完了します。

1. フィールド一覧

No.	<input type="checkbox"/>	詳細	フィールド名 (必須) ※最大128bytes	代替キーワード ※半角英数、ハイフン、アンダースコアのみ4-16文字	フィールドタイプ
(1)	<input type="checkbox"/>		メールアドレス		メールアドレス
(2)	<input type="checkbox"/>		お名前		テキストフィールド(128bytes)
(3)	<input type="checkbox"/>		会員ID		数字・記号・アルファベット(32bytes)
(4)	<input type="checkbox"/>		セミナー名と出席		セレクト

フィールド追加

チェック項目に対する操作

フィールド数 3 (Max: 150 fields) レコードサイズ 280 (Max: 16384 bytes)

※No. が振付付きのフィールドは未保存のフィールド

9

保存

「フィールド一覧」にて、フィールド名を入力したら「保存」を選択。

2-2-4 「全セミナー参加者の一覧表」を作成する

次に「全セミナー参加者の一覧表」を作成します。

「Web」グループを選択。

「一覧表作成」を選択。

The screenshot shows the SPIRAL management interface. On the left is a sidebar menu with various categories. The main area shows a 'Web' group selected, and a table of '一覧表' (List Tables) with columns for Title, DB Name, Access Limit, Last Updated, and Menu. A '検索フォーム・単票' (Search Form / Single Ticket) section is also visible at the bottom of the main area.

10 Web

11 一覧表・単票管理

12 一覧表作成

タイトル	DB名 ※名称をクリックで詳細ウィンドウ表示	アクセス制限	最終更新日時▼/ 最終更新者	メニュー
<input type="radio"/> FAQ	メルマガDB	ユーザー	2010-02-15 12:40 / ***	ページ表示 設定 複製 削除
<input type="radio"/> 回答結果	アンケートDB	一般公開	2010-02-15 12:36 / ***	ページ表示 設定 複製 削除

タイトル	タイプ	最終更新日時/ 最終更新者	メニュー

■パーツ「一覧表・単票管理」を選択。

2-2-4 「全セミナー参加者の一覧表」を作成する

「全セミナー参加者一覧DB」を選択して「新規作成」を押して、一覧表を作成する。

一覧表を作成するDBを選択してください。

選択	DB名	コメント(最大30文字)
<input checked="" type="radio"/>	全セミナー参加者一覧DB	
<input type="radio"/>	コメントDB	
<input type="radio"/>	トピックDB	
<input type="radio"/>	画像マスタDB	
<input type="radio"/>	[G_CAL]イベントDB	
<input type="radio"/>	会員DB	
<input type="radio"/>	アンケートDB	
<input type="radio"/>	お問い合わせDB	
<input type="radio"/>	メルマガDB	
<input type="radio"/>	資料請求DB	

初期設定を編集モードで作成する

13

02-1:ishin

02-1:ishin

新日
新者

2-2-4 「全セミナー参加者の一覧表」を作成する

The screenshot shows the SPIRAL management interface. The top navigation bar includes '管理', 'DB', 'Web', 'メール', 'ガジェット', 'オプション', 'アプリ', and '開発'. The 'Web' tab is active. The main content area is titled '設定一覧' (Settings List) and '一覧表とは' (What is a List Table). A table titled '一覧表' (List Table) is displayed with the following columns: 'タイトル' (Title), 'DB名' (DB Name), 'アカウント' (Account), '最終更新日時 / 最終更新者' (Last Update Time / Last Updated By), and 'メニュー' (Menu). The table contains three rows:

タイトル	DB名	アカウント	最終更新日時 / 最終更新者	メニュー
全セミナー参加者の一覧表	全セミナー参加者一覧DB	namikishin	2012-04-15 12:40 / namikishin	ページ表示
FAQ	メルマガDB	ユーザー	2010-02-15 12:40 / namikishin	ページ表示, ページ編集, 設定, 複製, 削除
回答結果	アンケートDB	一般公開	2010-02-15 12:36 / namikishin	ページ表示, ページ編集, 設定, 複製, 削除

A red circle with the number '14' highlights the 'ページ表示' button for the first row. A red arrow points from this button to the text below.

作成した「全セミナー参加者の一覧表」を選択して「ページ表示」を押して表示する。

2-2-5 「全セミナー参加者の一覧表」から検索する

「全セミナー参加者の一覧表」を使用して3つのセミナーを一回で検索できるようになり、全セミナー参加状況を簡単に把握できました。

検索したい名前を入力する。



15

16

全セミナー参加者の一覧表

id▲	メールアドレス	お名前	会員ID	セミナー参加
23678154702849	pi-pe@example.com	パイプ太郎	32	2012/03 スタートアップセミナー 参加
23678154702850	pi-pe@example.com	パイプ太郎	17	2012/06 SPIRALご紹介セミナー 参加

このページは、当社が契約する株式会社パイブドビツの情報管理システム「スパイラル」が表示しています。



「検索」を押して検索結果を確認する。

3【付録】

レコード数の上限値設定について

仮想DB(集合型)は上限値が30000レコードです。集合元のDBのレコード数合計が30000件以内であれば上限値の調整は必要なく、割当レコード数と同数を設定してください。

レコード数の上限値は、集合元のDBのレコード数が30000件を超えた場合に30000件に収めるための集合させる条件として調整する必要があります。

実例としては、最新のニュースのみを集合させてタイムライン上に表示させる場合などに使用します。例えば、30000件のスパイラルニュースDBと30000件のプレスリリースDBがあり、各DBから100件ずつの最新情報のみを一つのタイムラインに表示しようとした場合には、下記図のように、上限値を100に設定し、並び順を「ID」をキーに「降順」に設定することで実現できます。

タイムライン用設定例

▼ 集合元のDB一覧 [詳細設定を非表示]

No.	DB名	上限値【必須】 割当レコード数	並び順 抽出ルール	メニュー
1	スパイラルニュース	100 30000	ID 降順 ----- 設定しない -----	削除 編集
2	プレスリリース	100 30000	ID 降順 ----- 設定しない -----	削除 編集

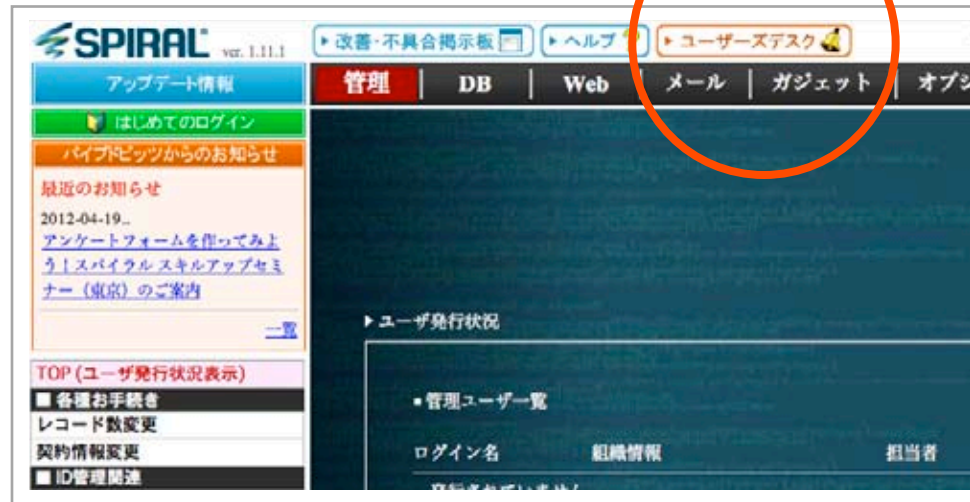
上限値合計 [200 / 30000]

※割当レコード数より上限値が低い、またはトランザクションDBの場合、上限値の背景色が になります

ご質問がございましたら **スパイラル ユーザーズデスク** よりお気軽にお呼び出してください。

専門スタッフより、すぐに折り返しご連絡差し上げます。

スパイラルにログインし、操作画面最上部の
[ユーザーズデスク] ボタンをクリックしてください。
ポップアップで「ユーザーズデスクご連絡フォーム」が開きます。



ユーザーズデスク受付時間 **10:00～18:00**
(土日祝祭日、年末年始休業を除く)

ユーザーズデスクについて <http://www.smp.ne.jp/usersdesk/>